

### 木の総合文化・ウッドレガシー推進協議会

## 木製サッシ具体化訴え

一般社団法人木の総合文化・ウッドレガシー推進協議会が4月10日、政



右から木の総合文化（ウッドレガシー）を推進する議員連盟事務局局長を務める柿沢未途（自民党国会対策副委員長）、武部新（自民党農林部会長）、三宅伸吾（自民党環境部会長）の3氏、木の総合文化・ウッドレガシー推進協議会の原口博光氏、同広報委員長の平田耕一氏

省、防衛省と「木製サッシ」に関する回答書について協議が行われた。

同協議会の会員である東京組と日本の窓は、窓サッシにアルミや樹脂製

に代わって日本産材を使用することを訴え、補助金など政府の積極的な支援を要望していた。これ

に対して国交省、林野庁、防衛省は昨年、回答書を提出した。

木の総合文化・ウッドレガシー推進協議会は、今回の政策実現委員会

で、この回答書に基づいて、国交省のホームペー

ジへの記載など木製サッシ利用の支援策を具体的に進めるよう要望した。

日本の窓はこれまで、スギなどを使った木製サ

ッシの性能を実証する実験を行い、そのデータを国に提出してきた。同協議会の原口博光会長は「ライフサイクルアセスメント(LCA)の観点からすると、樹脂やアルミ製よりも、自然の木を使う木製サッシの方が、二酸化炭素の発生量が少ない。地球温暖化防止のためにも、木製サッシの利用を推進していくことが必要」と訴えている。

各省庁の回答書の内容は次の通り。国土交通省は、木製サッシの断熱性能の高さが評価されており、その普及を図ることは、住宅・建築物の省エネ性能向上につながることを考え、支援を行っていることを回答した。また、建築士や住宅事業者向けの講習会などで、木製サッシなど性能の高いサッシを用いることが有効な選択肢である

ことを周知していく、林野庁は、構造材と比べて加価値の高い木製サッシなど建具への木材需要が拡大すれば、林業の採算性向上につながり、農林水産省の政策でも支援の枠組みがあることについて回答書で説明している。

東京組と日本の窓は、木製サッシが住宅用防音工事採用防音材料に採用できるよう要望している。これに対して防衛省は、2020年に木製サッシの国内製造状況、性能、価格などの情報収集を行い、メーカーへのヒアリングを行っている。

その調査結果を踏まえて引き続き検討していくことを回答している。

政策実現委員会には、国交省から大臣官房管轄部長、整備課木材利用推進

室長、大臣官房官庁管轄

整備課建築技術調査室課長補佐、防衛省から地方協力局長、防衛書記官

地域社会協力総括課長、整備計画局施設設計画課施設政策室長、地方協力局

地域社会協力総括課住宅防音班班長、林野庁から長官、林政部木材利用課建築物木材利用促進官、林政部木材産業課長、林政部木材利用課長らが出席した。